

第 20 回富山県自殺対策推進協議会 議事録要旨

1 日 時 令和 3 年 3 月 3 日(水) 10 : 00 ~ 11 : 30

2 場 所 富山県民会館 401

3 出席者 委員 18 名

4 議 事

- (1) 富山県における自殺の現状について
- (2) 富山県自殺対策計画の進捗と主な取組み状況について

5 委員発言 (要旨)

【職域】

- ・各種相談対応の中で、コロナの影響で職場から、来なくていいと言われた、解雇された等、雇用に関する相談が増加しており、関連して生活困窮に関する相談も増加している。

【学校】

- ・全国的に若年層（生徒）の自殺者数が増えていることについて、youtuber や有名人の自殺から強く影響を受けているのではないかと。若年層は影響を受けやすい傾向にあるため、安心できる相談窓口を表示させるだけでなく、悪質なサイトを規制することが必要。

【若者対策】

- ・電話を利用する機会が減っている若者にとっては、SNS 相談は電話相談より利用しやすく、増加している若年層の自殺を予防するために効果的なツール。
- ・若者の生活の中でインターネットが、大きなウエイトを占めており、インターネット内の各種ツールを活用した取組みを拡充すべき。

【普及啓発】

- ・自殺対策において、自殺関連ワードを検索した際に安心できるサイトが最初に表示されることが最も重要であり、検索連動広告の表示期間を通年に拡充することは良い取組み。加えて自殺を誘発する悪意のあるサイトを県警と協力して削除していくことも必要。
- ・幅広い年代で自殺を防ぐためには、相談窓口の周知が重要。テレビや新聞で相談窓口だけではなく、相談窓口を周知するステッカーを作ってはどうか。

【自死遺族支援】

・自死遺族支援の現場でも、今年はコロナの影響で相談者が増加している。特に若い女性の自死遺族の相談が多い。後追い自殺を防ぐため自死遺族支援は重要。

【その他】

- ・従来から行政機関の相談窓口が平日しか開いていないことが問題点として、挙げられていた。休日や夜間に電話相談窓口を拡充するのは良い取組みだと思う。
- ・全国と比較すると、例年富山県の自殺死亡率は高い傾向にあり、自殺死亡率の低い都道府県と情報共有し、他県の取組みを分析、参考にしていくべき。
- ・電話相談や対面相談の内容を精査、分析することで有効な対策を打ち出すことができるのではないかな。
- ・NPO 法人の活動について、団体間のネットワークが上手く機能していない。県内のNPO 法人の連携強化、活動の周知を行うべき。
- ・令和2年の自殺者の傾向は昨年と異なっており、より詳細に分析を行うべき。
- ・家庭の中で、家族の関係性を良くすることで、自殺を防ぐことができるのではないかな。
- ・生活保護の受給を躊躇してしまっているケースが多いと聞いている。相談窓口等の普及啓発としてチラシを作成する際に、生活保護制度について、より詳しく、分かりやすく記載、周知徹底した方が良い。